

中国の介護人材事情①

世界随一の人口を誇る中国では、これから急激に高齢化が進むことが予想されています。

中国の介護制度の特徴は、家族による在宅での介護を柱にしていること。儒教が浸透している中国では、伝統的に「孝順父母」という考え方が根強く、「年をとった親

は子供が看るのが当たり前前だ」と思われています。「子供が親の世話を拒絶してはならない」「もし世話をしなければお金を請求できる」など、法律で定められているのです。

2015年まで行われていた一人っ子政策により、「421家庭」（祖

父母4人、父母2人、1人の子）が増えている中国ですが、将来的には6人の高齢者を1人の子が支える状況になります。

このような状況で家族だけで介護をまかなうのはかなり難しいため、介護ニーズは大都市圏から地方都市にも拡大しています。

都市部の国営老人ホームは常に満室で、人気のホームになると中には100年待ちと言われるほど供給が追いついていません。介護施設や人手が足らず、要介護度が低い高齢者しか受け入れられない老人ホームも見受けられます。一方で農村部では、都

都市部・農村部で格差

市部に働きに出る若い人が増えた結果、高齢者の一人暮らしが目立っています。

施設に入るのではなく在宅で介護してもらい、自宅で一生を過ごしたいと望む人が多いため、介護施設は空床率が高く、在宅介護サービスが広く提供されています。

前述のように、中国では「高齢者の世話は、家族の責任である」という考え方が根強くあるため、介護の専門知識を持った人というよりも家族の代わりに世話をしてくれる人が介護現場

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理
稲田義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。

に求められています。そのため、失業者や農村部の人たちが介護サービスに携わっています。

が、そうした人の多くは専門的な研修を受けずに介護の仕事に携わっている状況です。

次回は人材不足の課題について、さらに掘り下